

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め

八章	①天下(c')②人間(物:場c')③心の世界(物:場c')⇒からの関係:①と②とを③に「④移した」(D1の至大化)⇒「⑤眼に見える(形而下の)下克上劇(④的対立概念F)⇒E:⑤から「⑥眼に見えぬ(形而上の)克己劇(物:場c')を創り上げた」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)⇒藤樹(△粹):①への適應正常。
九章	①仁齋の學問(物:場c')②藤樹(物:場c')⇒からの関係:②が「③:心法と呼びたかつたものが①の根幹をなしてゐる」(D1の至大化)⇒しかし②がそのまま信じた「④:四書[朱熹の編集]・大學[朱熹の編集(禮記の大學篇)]」(③的対立概念F)⇒E:④に「⑤:原典批判や『大學、孔子之遺書に非らざるの辯』の劃期的研究も現れるに至つた」(Eの至大化)(④への距離獲得:Eの至大化)⇒仁齋(△粹):②への適應正常。

十章	
十一章	

①(物:場c')

八章:①天下(c')②人間(物:場c')③心の世界(物:場c')

九章:①仁齋の學問(物:場c')②藤樹(物:場c')

十章:

十一章:

② からの関係②(D1の至大化)

八章 ①と②とを③に「④移した」(D1の至大化)

九章 ②が「③:心法と呼びたかつたものが①の根幹をなしてゐる」(D1の至大化)

十章

十一章

E: [F(③言葉・概念)との附き合ひ方④・用法④]...「So called」
「F③と(△粹)との距離獲得」(Eの至大化)。

八章:⑤から「⑥眼に見えぬ(形而上の)克己劇(物:場c')を創り上げた」(Eの至大化)(⑤への距離獲得:Eの至大化)

九章:④に「⑤:原典批判や『大學、孔子之遺書に非らざるの辯』の劃期的研究も現れるに至つた」(Eの至大化)

十章:

十一章:

(△粹)

八章:藤樹(△粹)。

九章:仁齋(△粹)。

十章:

十一章:

F(言葉・概念)...

八章:「⑤眼に見える(形而下の)下克上劇(④的対立概念F)

九章:「④:四書[朱熹の編集]・大學[朱熹の編集(禮記の大學篇)]」(③的対立概念F)

十章:

十一章: